

モデルコース③

協働で旅人を支えた笹子三宿コース

笹子峠の手前にはわずかに7キロメートルほどの間に白野宿・阿弥陀海道宿・黒野田宿の3つの小さな宿場町が続きます。これら笹子の三宿は一か月の業務を交代して果たす合宿で、小さい宿場でしたがそれぞれに本陣がありました。笹子峠越えを控えた旅人たちに追分人形芝居を演じたといわれ、いまま継承活動が続けられています。旧道の静かな町並みに沿って時折見られる石碑などに注目したり、神社の境内で佇んだりしながら、ゆったりとした散策が楽しめます。



白野宿

甲州街道、甲斐国14番目の宿場。合宿であった笹子三宿の中では、23～30日を担当していました。西に向かって二手に分かれる道を右側に入るとあるのが白野宿です。とても静かな町並で、訪れる人をほっとさせます。



立石坂の立石

地元では古くから山姥が石の杖をつきながら歩いてきたところ折れてしまったので、一片をこの坂に、もう一片を岩殿山の麓に突き刺し捨てたと言われています。現在は鉄道に遮られているため、この坂を越えることはできませんが、かつての甲州街道の趣が感じられる場所となっています。

葦が池

吉久保地域にある沼地で、往時には三丁余り(約9,000坪)とかなりの広さを誇っていたといわれています。この地には、「よし」という娘が旅の僧侶への悲恋によりこの池に身を投げ、毒蛇になってしまい、親鸞上人に供養されたという「葦が池の伝説」が残っています。

追分の人形芝居

甲州街道最大の難所である笹子峠の麓にある笹子村で、峠越えを控えた旅人をもてなした人形芝居です。人形芝居は、主遣い、足遣い、左遣いの3人で人形を遣います。それぞれが細かな動作を表現することによってなめらかな動きを魅せることができます。笹子村で、800年前から語り継がれてきた「葦が池の伝説」は、70年以上前に「吉窪美人鏡・親鸞上人御法度「毒蛇救済の段」」として演じられた記録があるものの、口伝であったため途絶えてしまいました。2004(平成16)年の平成の追分人形復活に当たって、古い台本を頼りに、演出のアレンジや新たな顔を加えてこの演目も復活となりました。



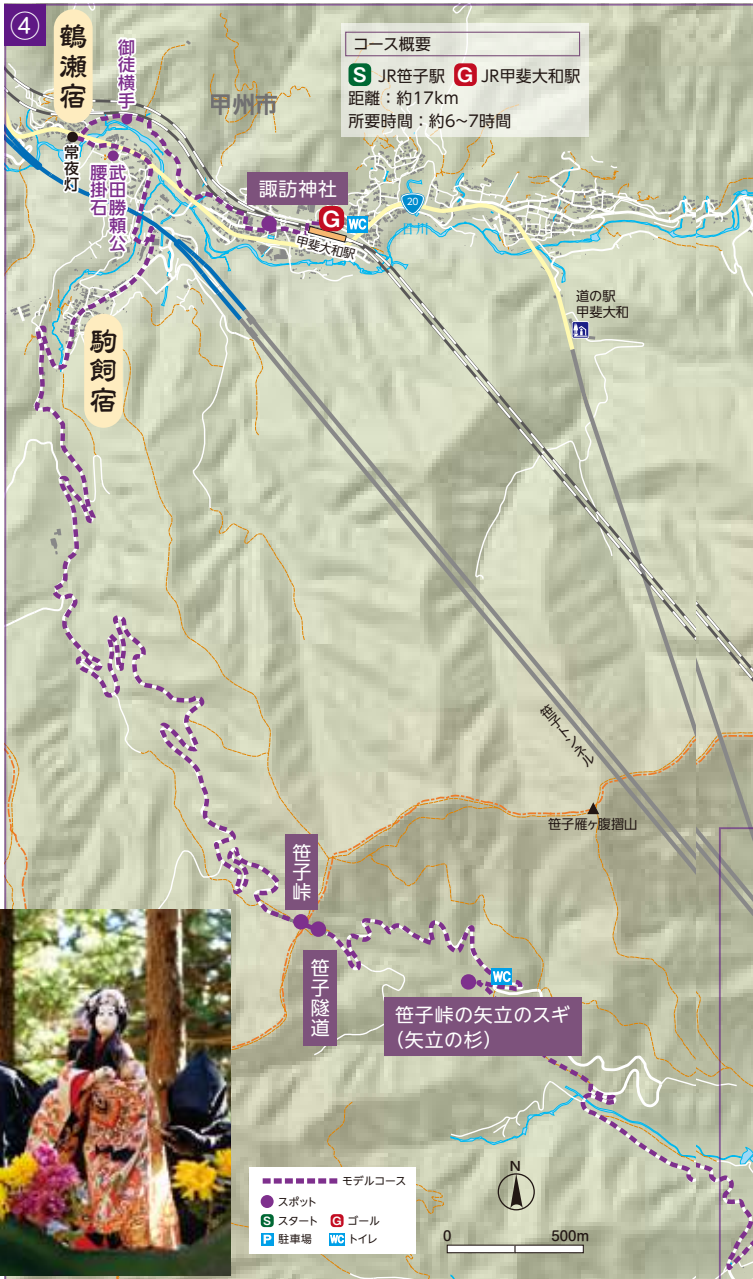
阿弥陀海道宿

甲州街道、甲斐国15番目の宿場。合宿であった笹子三宿の中では、16～22日を担当していました。笹子峠の茶屋では力が付くようにと「笹子の力餅」が販売されていたそうですが、この地域にある「みどりや」では、力餅が由来の「笹子餅」を今も購入することができます。近くの「笹一酒造」では、明治天皇の御前水として使用された「笹子峠の湧き水」があります。この水を使用して仕込んだ日本酒も人気です。



黒野田宿

甲州街道、甲斐国16番目の宿場。合宿であった笹子三宿の中では、最も長い1～15日を担当していました。また、笹子峠を越えるに当たって最後の宿場であったため、旅館の数も多く、賑わっていたと言われていました。現存する黒野田宿本陣には、門構えや出桁造りから、昔の面影が見られます。また、明治天皇行幸の際には、休憩所や宿泊所として使用されました。現在は民泊としての利用も可能です。



モデルコース④

甲州街道随一の難所・笹子峠越えコース

標高1,096メートルを超える笹子峠の道のりは非常に厳しく、甲州街道最大の難所と呼ばれていました。峠の途中にある笹子峠の矢立の杉(矢立の杉)は、戦国時代に武士たちが必勝を祈願して矢を放ったことが由来といわれており、その雄大な姿から往時の著名な浮世絵師に描かれるほどでした。笹子峠越えの甲州街道は歴史の道百選(文化庁)に選定されており、道々に往時の面影が残されています。また、峠を越えて駒飼宿や鶴瀬宿で、かつての宿場の名残にふれながら散策を楽しむことができます。

笹子峠の矢立の杉(矢立の杉)

笹子峠の途中にある、樹齢1000年とも言われる巨木です。樹高約28m、根回り14.8mで、1960(昭和35)年に山梨県の天然記念物に指定されています。戦国時代、笹子峠を越えて合戦に向かう武士たちが必勝を祈願してこの杉に矢を射たことが、名前の由来とされています。甲州街道が整備されたのちには、多くの旅人が峠を越える際の憩いの場として人気を得ました。現在は、矢立の杉を見ながら過ごすことのできるデッキやベンチが整備されており、今もなお、くつろぎの空間を提供してくれます。



笹子隧道

甲州街道で一番の難所と言われた笹子峠を越えるため、1938(昭和13)年に峠の真下に造られた長さ239mのトンネルです。1958(昭和33)年に新笹子トンネルが開通するまでの間、東京への幹線道路として、山梨の経済発展と交通の近代化に貢献しました。鉄筋コンクリート造りで、大月市側には入口両脇に柱形の装飾が2本並ぶなど西洋建築風の意匠が特徴である一方、甲州市側は簡素な造りになっています。1997(平成9)年に国の登録有形文化財に登録されています。



笹子峠

黒野田宿と駒飼宿の間にそびえる標高1096mのこの峠は、上り下りで二里半(約10km)の険しい坂道が続く。甲州街道一番の難所と言われていました。江戸時代は、大月や上野原などの郡内地方と甲府盆地を中心とする国中地方の境目であり、現在も大月市と甲州市の境に当たります。



駒飼宿

甲州街道、甲斐国17番目の宿場。甲州街道最大の難所といわれた笹子峠を越えた麓にあります。この宿には、甲斐国の御牧(御料牧場)があったと言われていました。この地区に住む人々は現在もお互いを屋号で呼び合い、当時の名残をとめています。北側にある鶴瀬宿とは、複数の宿で1つの宿の役割を果たす「合宿」で、駒飼宿は21～晦日までを担当していました。この地域には、叶岡地蔵尊という持ち上げることができる願いが叶うというお地蔵様が安置されています。



鶴瀬宿

甲州街道、甲斐国18番目の宿場。南側の駒飼宿とは、複数の宿が一宿の役目を果たす合宿を行っており、鶴瀬宿は1～20日までを担当していました。また、甲州十二関の一つである鶴瀬の番所があり、特に「入り鉄砲に出女」を取り締まったそうです。

諏訪神社

山梨県に127社ある諏訪神社の一つで、建御名方命を祀っています。本殿は1793(寛政5)年に「下山大工」の土橋文蔵によって再建されました。昇り龍や降り龍などの鳥獣を配した精緻な彫刻が今も残る本殿は、1994(平成6)年に山梨県の指定文化財になりました。本殿裏にある神木の朴の木は樹齢二千数百年以上と言われ、ヤマトタケルが杖にした木をから発芽したとされています。古来からこの神木をおろそかにすると、災いが起きると言い伝えられています。また、境内には笹子峠の「矢立杉」、一宮の甲斐奈神社の「橋立の大杉」と並び「甲州街道の三本杉」と言われた「初鹿野の大杉」がありました。鉄道の開通に伴い、振動と蒸気機関車の煙で枯れてしまい、今は切り株が残されています。

